

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

ひまわり



第48号 令和8年 8月
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

【在宅療養を支える「薬局どん2」の活用について】

在宅医療・介護では、医師や訪問看護師、ケアマネジャー、介護職、薬剤師など、多職種が連携して患者さんの生活を支えています。その中で、「どの薬局に相談すればよいのだろう」「在宅訪問に対応できる薬局を探したい」と感じる場面はありませんか。

そんな時に役立つのが、鹿児島県薬剤師会が運営する薬局検索システム「薬局どん2」です。登録不要・無料で利用でき、スマートフォンやパソコンから県内の薬局を簡単に検索できます。

「薬局どん2」では、在宅訪問の可否、無菌調剤への対応、医療用麻薬の取扱い、休日・夜間対応、一般用医薬品(OTC)の取扱いなど、それぞれの薬局が対応可能な機能やサービスを確認できます。患者さんや利用者さんの状況に応じて薬局を探せるため、多職種が薬局へ相談する際の大きな助けとなります。

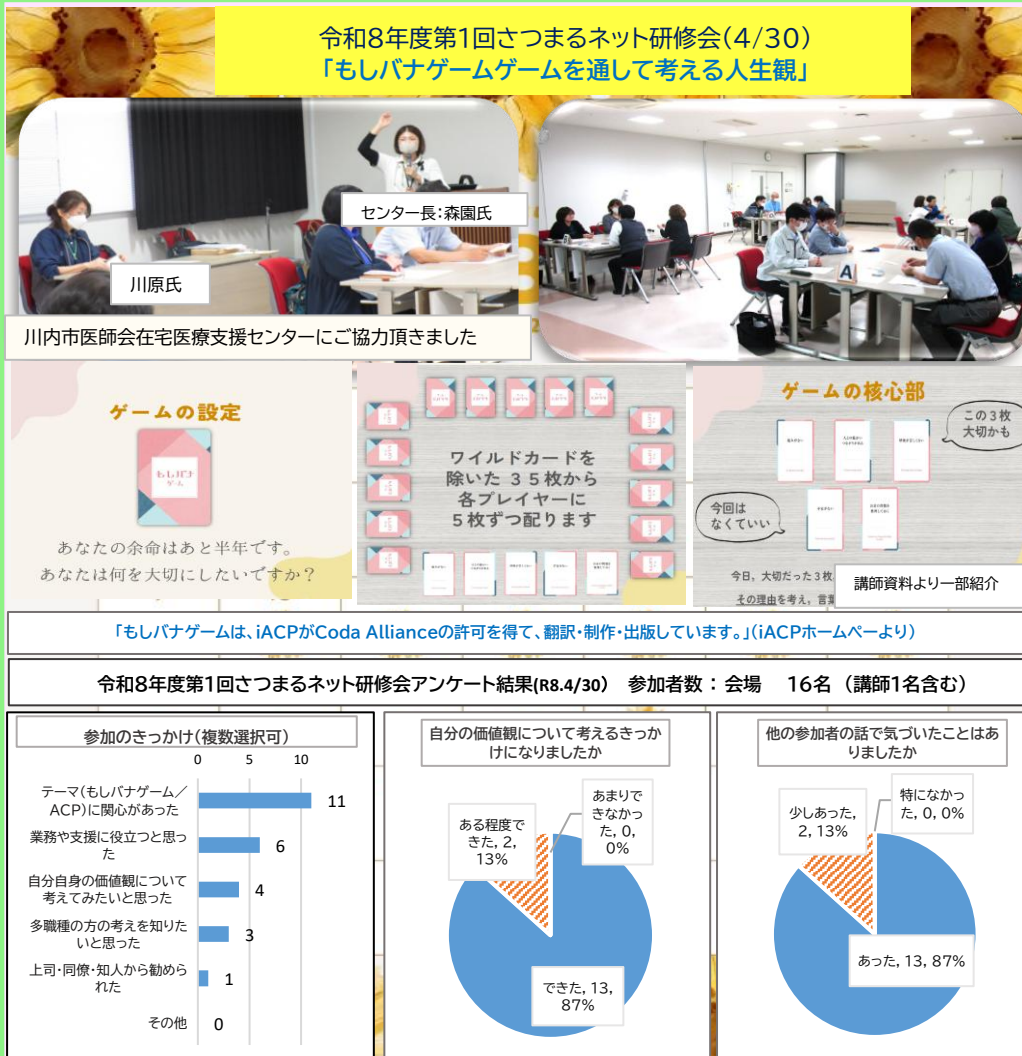
また、休日当番薬局や夜間当番薬局も検索できるため、休日等に急な処方せん対応が必要になった場合や、服薬に関する相談先を探したい場合にも役立ちます。介護現場では、利用者さんの体調変化や退院直後など、通常の営業時間外に対応が必要となることもあります。そのような場面でも、当番薬局を迅速に確認できることは大きな安心につながります。

薬剤師は、薬を調剤するだけではなく、在宅医療では、服薬管理や残薬の整理、副作用の確認、服用しやすい剤形への変更提案、一包化の対応などを通して、患者さんが安心して薬物療法を継続できるよう支援しています。また、ご家族や介護職の皆さまから「薬が飲めていない」「薬が余っている」「飲み込みが難しくなった」「薬の管理が難しい」といったご相談を受けることも少なくありません。

このような課題は、早い段階で薬剤師へご相談いただくことで解決できる場合があります。そのためにも、地域の薬局がどのような機能を持ち、どのような在宅医療に対応しているのかを知っておくことは、多職種連携を円滑に進めるうえで重要です。

「薬局どん2」は、必要な時に適切な薬局へつながるための便利なツールです。日頃から活用していただくことで、在宅療養中の患者さんへの支援だけでなく、休日・夜間の急な対応にも役立ちます。ぜひ地域の薬局を身近な医療資源として、多職種連携や在宅療養支援にご活用ください。(文責:薩摩郡薬剤師会 理事 青空薬局 寺地拓哉)

薬局どん2(鹿児島県薬剤師会)
<https://kayaku.jp/don2/>



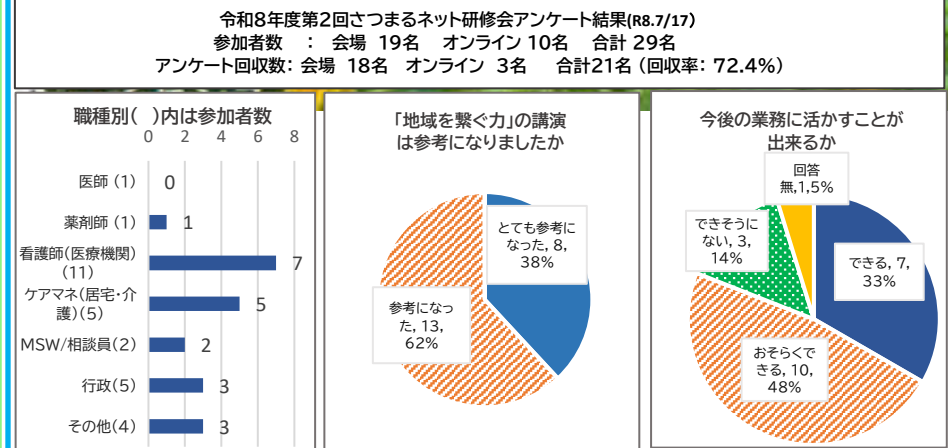
【印象に残ったことや気づき】

- ・いろいろなことを考えるきっかけになりました。
- ・職場でもやってみたいと思いました。
- ・家族とやってみたいなと思います。
- ・他の人の「大切にしたい3つ」の理由を聞いた時、自分の考えにも気づいたこともあった。
- ・カードを選ぶのに真剣に考えました。最初ここまで考えるとは思いませんでした。
- ・経験、立場で価値観が違い、尊重する必要があると感じました。
- ・グループメンバーの中で「親友がそばにいてくれる」を選ばれた方がおられ、これまで自分の中では考えた事がなかったので気づかせてもらえた。
- ・その方々のライフステージによって異なることを知り嬉しかったです。

【一般住民がもしバナゲームを行う場合に必要配慮や工夫】

- ・対象年齢で雰囲気も変わると思います。
- ・相手の選択や考えを否定しないこと。
- ・丁寧な説明が必要
- ・高齢者(サロン参加者の層)は、カードの文字やルールを理解するのに時間がかかるので、サポートのスタッフが必要だと思いました。
- ・自分の考えが出しやすい雰囲気(知られてもいいと思える)があればいいのではと思いました。

令和8年度第2回さつまネット研修会(7/17) 「地域を繋ぐ力～MCSを地域と組織の「動く連携」へ～」



【今回の研修での学びは今後の業務に活かすことができるか?】

- 「できそうにない」理由
- ・事業者側の協力を得られることが困難。新しいシステムが入ることに対してアレルギーのある職員が多い。一人では解消していくことがとても困難。
- ・具体的な使用方法がわからない。仕事への活用方法がわからない。
- ・AIの利用等、得意ではない。

【研修に対するご意見・ご感想】

- ・業務改善につながると感じた。デジタル化する事で情報伝達も早い事、必要な情報でした。最近ではAIを活用した記録の仕方に取り組んでいるところだす
- ・うまく活用できればと思うが、当事業所でうまく導入するのは、とても時間がかかりそうな気がする。
- ・業務の中でコミュニケーションツールやAIを活用する機会が増えてきましたが(居宅では)、通所、訪問などの事業所、医療機関、施設との活用はまだまだです。畑中さんのアプリの作り方、プロンプトの作り方を研究します。
- ・全員に情報共有することは難しいことであるが、MCSを利用することで情報が簡単に共有できることに驚いた。みんなで情報共有できることで、患者の利益につながることは画期的だと感じた。

令和8年度第1回薩摩郡医師会在宅医療介護連携推進作業部会



摂食嚥下・口腔ケア班

医療介護連携班

ACP班

令和8年5月20日(水)薩摩郡医師会病院2階会議室において、初任委員10名を含む26名の出席(欠席4名)で開催いたしました。さつまネット研修会、あんしん医療連携シートの記載状況について報告を行った後、令和8年度の活動計画について各班で協議が行われました。医療介護連携班では、新委員の方にあんしん医療連携シートについて実例を交えて説明して頂きました。ACP班、摂食嚥下・口腔ケア班では、今年度の研修会について協議していただきました。さつま町消防本部から北薩MC協議会におけるDNARプロトコルの策定について説明していただきました。委員の皆様、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。